

## 薬学生のための小児薬物療法体験コース（アンケート集計結果）

日 程 2025年11月5日（水）

参加者 薬学部5年生（7名）

### 1. 他施設のインターンシップや病院見学にも参加したか

はい（7）、いいえ（0）

### 2. 1で「はい」と回答した場合の施設名（重複回答あり）

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 上尾中央総合病院（3）     | 成育医療センター（2）         |
| 都立小児総合医療センター（1） | 彩の国東大宮メディカルセンター（1）  |
| 板橋中央総合病院（1）     | イムス板橋リハビリテーション病院（1） |
| 高島平中央総合病院（1）    | 帝京大学医学部付属病院（1）      |
| 徳洲会茅ヶ崎病院（1）     | 埼玉県立循環器呼吸器センター（1）   |
| 埼玉県立がんセンター（1）   | 埼玉県立精神医療センター（1）     |
| 福岡市立こども病院（1）    | 福岡赤十字病院（1）          |
| 北九州八幡病院（1）      | 兵庫県立こども病院（1）        |
| 産業医科大学病院（1）     |                     |

### 3. 今日の満足度（5がよい、1が悪い）

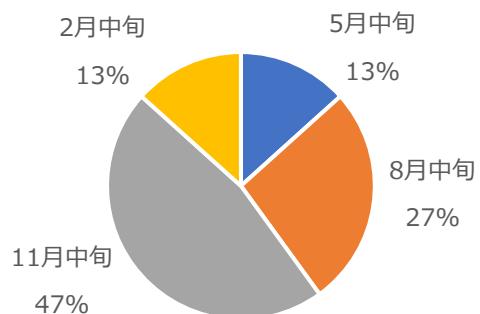
5（6）、4（1）、3以下の回答なし

### 4. 平日開催と休日開催のどちらを希望するか

平日（5）、休日（2）

### 5. インターンシップの期間はいつが適切か（複数回答可）

- 5月中旬（2）
- 8月中旬（4）
- 11月中旬（7）
- 2月中旬（2）



## 6. 参加して最もよかったです項目（1つを選択）

小児調剤（0）、注射調剤（1）、IVH・化学療法ミキシング（1）、  
医薬品情報（0）、病棟（5）

## 7. インターンシップの感想（自由意見）

- 実習先が小児病院ではなかったため、成人領域の病院と比較しながら見学することができた。医薬品の性質や輸液の組成を今まで以上に理解する必要があると感じた。
- 無菌室に入って見学できる施設は他ではなく、大変参考になった。  
化学療法では重量鑑査システムの導入や閉鎖式器具の使用で、正確性、安全性の向上が図られていて、安心して働ける環境が整っているところが魅力的だった。
- 調剤から病棟まで様々な内容を体験でき、とても充実したインターンシップであった。小児医療センターで働きたいという気持ちが強くなった。質疑応答の場でも多くのことを聞くことができ、とてもよかったです。
- 病院実務実習では聞けなかった就職活動についての話も聞くことができ、申し込んでよかったと思った。
- 業務が多忙ななかで、このような機会を設けていただきありがとうございます。小児に対する薬物治療について講義だけでなく見学も通して学ぶことができた。
- 多くの話を聞くことができ、自分が実際に働く姿を想像することができた。  
本日はお時間をいただきありがとうございました。
- 病院実習では小児の医療を体験することができなかっただため、今回のインターンシップで小児病棟や小児に用いる薬を実際に見ることができとても勉強になった。

### 【アンケートのまとめと分析】

参加者は、病院の特性から小児医療を志望する学生と首都圏の中規模病院を志望する学生とに2分している。開催時期はこれまで秋と翌年春を希望する学生が多くなったが、就職活動の早期化の影響から、夏と秋を希望する学生が多くなっている。内容については病院実務実習で体験することが難しい小児科の病棟業務が圧倒的に多数であった。

アンケートの結果は今後のカリキュラム編成の参考としたい。（嶋崎幸也）